阪神・淡路大震災から30年

少し古い出来事になりますが、今から30年前の1月17日の話をします。
ニュージーランドの日本人学校で働いていた私に、母親から 1 本の国際電話が入りました。「神戸に地震があって、大変なことになっているよ。」
その日、兵庫県を中心とした「阪神・淡路大震災」が起きたのです。とても寒い時期の朝早い時間帯での出来事でした。建物の下敷きになったり、火事から逃げ遅れたりして、亡くなられた方は6400人にものぼりました。

私はそれから、地元の新聞やニュース番組を見て、そのすさまじさを知ることになります。多くの建物が倒壊し、高速道路は崩れ、火災が起きた場所は焼け野原となっています。その悲惨な光景に、外国人記者も目に涙を浮かべていました。

月日は流れましたが、歌で、映像で、その時のことが今でも語り継がれています。川島あいさんが歌う「しあわせ運べるように」を聴いてください。

「しあわせ運べるように」川島あい　視聴

地震があった日から、数日がたちました。地元のニュース番組では、被害状況よりも、いつの間にかがんばっている日本人の姿が映し出されるようになったのです。おにぎりの配給に整然と並んでいる人たち、一つのケーキを譲り合う親子、焼けた家を懸命に整理するお年寄りの姿。
外国人記者は、「こんな時も、自分のことより、人のことを考えている日本人はすばらしい。」、「食べ物も少ない中、暴動が起きないことは奇跡だ。」、「日本人は、気持ちを切り替え復興へ向かっている。」日本人をたたえる言葉が並んでいました。
そして、その年の年末には、復興・再生への夢と希望を託し、光の祭典と呼ばれるイルミネーション「神戸ルミナリエ」が開催されるようになりました。
また、次の年には「がんばれ神戸」を合言葉に、神戸を本拠地とする野球チームが優勝を果たしたのです。その野球チームにはあのイチロー選手も在籍していました。

あれから30年、神戸の街は見事に復興を果たしました。苦しいときも助け合い、辛いときも励まし合い、みんなで一歩前へ進む。私たちが住んでいるこの国は、そんなやさしさと、力強さを兼ね備えた国なのです。